

1 事業名 ボランティア活動入門セミナー

2 必要性

多くの青年が、ボランティア活動に内在する様々な学びを全人的な成長への足がかりとしながら、社会にとって有用な人材に巣立っていく支援をすることは青少年教育施設の使命である。また、活動に参加する青年の裾野を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青年を育成する事業は社会からの要請があるところである。本事業は国立青少年教育施設が持つ機能を最大限に活かして、青年にボランティア活動に関する学習の機会を提供するものであり、主体的に社会に参画しようとする態度を養成しようとするものである。

3 趣 旨

ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することでボランティアな心を育むとともに、社会の様々な場面で主体的に活動することのできる人格の形成に資する。

4 後 援

島根大学，島根県立大学

5 期 日

平成21年5月22日（金）～24日（日）（主な対象である大学の1回生が参加しやすい時期を設定した。）

6 参加者

- (1) 募集対象・人数 ボランティア活動に興味関心のある大学生・青年 30名
- (2) 参加人数 22名
- (3) 参加者分析 大学生・青年30名の募集に対して、島根大学から15名、島根県立大学短期大学部出雲キャンパスから3名、島根県立大学短期大学部松江キャンパスから2名、トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校から2名の学生の参加があった。募集チラシを見て自ら参加を申し込んだ学生の学校が新たに2校あり、所属学校の幅が昨年より広がった。しかし、島根大学教育学部の1回生と2回生の参加が例年に比べ減少しているのが課題である。
- (4) 参加地域 島根県22名

7 講師等

周藤 八重子 氏（島根県立生涯学習推進センター研修調査グループ）
（体験活動ボランティア活動支援センターコーディネーター）

ボランティアスタッフ

（法人ボランティア養成共通カリキュラムの単元別に講師，職員，ボランティアスタッフで分担を決め実施。）

8 参加経費 3,100円

9 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、ボランティアリーダー養成事業の入門編と位置づけ、人間関係能力・コミュニケーション能力等ボランティア活動の基礎基本となる事項を学んでいく機会を提供するものである。プログラムについては、体験学習法を軸に参加型の学習を準備し、今後の活動意欲へと繋がるよう工夫する。また、機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムを実施し、当施設でのボランティア活動を希望する者に法人ボランティア登録の機会を提供するものとする。さらに、現在登録している法人ボランティアを活動リーダーとすることで活躍の場を提供し、事業効果の向上を図る。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

法人ボランティアに登録してもらうためには、何より「今後も三瓶で活動したい。」「三瓶にまた来たい。」という肯定的な感想を持ってもらうことが大切である。そのため、当施設がすすめている活動プログラムの「カプラ」体験、スナッグゴルフ、バウムクーヘンづくり、バイキング野外炊飯などの学生にとって魅力あるプログラムを提供できるよう配慮した。また、先輩法人ボランティアに「ボランティア活動の理解」の指導を任せることや「ボランティア活動の意義」「青少年教育の理解」の部分等を、ボランティア経験豊富な講師に依頼することによって、参加者自らがボランティアのイメージを幅広く捉えることができるように考慮した。

(3) 広報のポイント

先輩法人ボランティアが後輩ボランティア獲得に積極的に関わってくれた。信頼する先輩からの広報は、参加者の獲得に重要なポイントであることがわかる。



学びのある「野外炊飯」



野外活動で役立つ「応急手当」

(4) 日 程 表

	20:00	20:30	21:30	22:00	23:00
5/22 (金)	受付 オープ ニング	実習 プログラム体験 「みんなが自然とつながるカ プラ体験」講師：交流の家職員	講義 「青少年教育施設の現 状と運営」 講師：交流の家職員	入 浴	就 寝

5/23 (土)	6:30	9:00	10:00	14:00	17:10	19:00	20:30	23:00
	起つ朝 ど 床い食	講義 「青少年教育施設の 現状と運営」 講師：交流の家職 員	実習 「学びのあ る野外炊飯」～バ イキング炊飯&バ ウムクーヘンづく り～講師：交流の 家職員	実習 「野外活 動における救命 救急法」 講師：交流の家 職員	つ夕 ど い食	実習 「先輩が語る学び のあるボランティ ア」～火を囲み夜 空を見ながら～	入自交 浴由流	就 寝

5/24 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30
	起つ朝 ど 床い食	講義 「ボランティア活動の意義」 講義 「青少年教育の理解」 講師：周藤 八重子 氏	昼 食	クロージング 「ふりかえり」	ボランティア登 録手続き& スナッグゴルフ	解散

(5) 運営のポイント

法人登録ボランティアには、「ボランティア活動の理解」の部分として、実習 「先輩が語る学びのあるボランティア」の運営を任した。三瓶でのボランティア活動についての先輩ボランティアからの生の声が参加者の理解に大きく繋がった。

(6) 安全管理のポイント

実習 では、「野外活動における救命救急法」と題して、野外活動中起こり得る事故を想定したより実態に即した形で実施することとした。毛布を使った救急搬送や保温、三角巾を利用した効果的な止血方法・患部固定方法等について学んだ他、虫刺されにも対応できるよう、ポイズンリムーバーの扱い方についても学んだ。

(7) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者22人中）

大変良かった 17人（77.3%） 良かった 5人（22.7%）

・今回、参加させてもらって、ボランティアに対する考え方が少し変わりました。今までは、ボランティアは自分の気持ちとかは関係なく、他人のためにやるものだと思っていたんですが、先輩のみなさんや講師の周藤さんお話を聞いて、自分のためにやってもボランティアになるんだと分かりました。それでもなおかつ、人のためになるなら、とてもいいことなんだなと思いました。そういうボランティアをこれからもやっていきたいなと思いました。

10 成果と今後の課題

< 成果 >

島根県立大学短期大学部松江キャンパスやトリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校からの参加者を得たことは、少しでも幅広い参加者を集めたという点が広報の成果である。また、講師や先輩ボランティアから「ボランティア活動は自分のためにするものである。」といったボランティア活動の意義を参加者に十分に理解させたことも大きな成果である。

< 課題 >

参加者数が例年に比べて減少した。しかし、参加者は、当施設での活動に十分満足していたので、今後は、いかに当所に来て活動をする学生を獲得していくかが広報のあり方を含めて課題となる。

1.1 普及計画・普及実績

事業実施後、事業内容をHP上に掲載した。また、県立の青少年教育施設等にボランティア養成のモデル事業として実践事例を紹介し、成果の普及に努めた。

1.2 その他

当施設の魅力ある活動プログラムの体験や講師、先輩ボランティアからの「ボランティア活動の意義」といった大きな学びなるセミナーであった。当所での活動のすばらしさを少しずつでも広げていける取り組みを展開していく必要性を強く感じた。

(担当 戸田 美之)



みんなが自然とつながるカプラ体験



参加者の自己紹介



先輩が語る学びのあるボランティア



ボランティアとは何か？周藤 八重子講師